

## 未来ファンドおうみ

## 2018年度助成事業 成果報告書

2019年5月18日発表

※裏面も記入してください。

1. 団体名	: 夢・びわ湖
2. 事業名	: 琵琶湖赤野井湾でイケチョウガイの調査育成と市民への啓発活動
3. 助成基金名	: びわ湖の日基金
4. 助成金額	: 239,000円
5. 実施事業の概要	<p>(1) 『赤野井湾で育ったイケチョウガイが育ててくれた真珠を見てみよう』事業</p> <p>1) 開催日時: 2018年7月22日 8:00~13:30</p> <p>2) 参加者: 一般市民14人 講師2人 守山市広報課職員1人 会員9人</p> <p>3) 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・オリエンテーション</li><li>・イケチョウガイの浄化実験</li><li>・夢・びわ湖の活動をパーポイントで説明</li><li>・船で沖に出てイケチョウガイの観察</li><li>・生物調査</li><li>・湖底調査</li></ul> <p>《帰港後》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・専門家による講義と真珠の取り出し</li><li>・貝の浄化実験の検証</li><li>・湖魚の試食(湖魚のてんぷら、佃煮、鮎ずし ザリガニのパエリヤ他)</li></ul> <p>(2) 定例活動</p> <p>1) 6月、9月、11月、3月に船で沖に出て垂下しているイケチョウガイの調査 洗浄、垂下地点の水質調査の実施</p> <p>2) 毎月湖岸清掃と外来植物除去活動</p> <p>滋賀県は4月以降琵琶湖のプラスチックゴミの実態調査に乗り出し、赤野井湾をモデルに実態把握を進める方針が出されたことを受けて、それに先駆け2月から回収したゴミの分別を開始した。</p>

※この成果報告書は、印刷して当日参加者に配布します。

6. この事業を実施することによって、関係者（参加者、支援者、団体運営者、地域の人々など）にどのような変化がありましたか？

(1) 事業参加者から

- ・琵琶湖をきれいにする活動があることを初めて知った
- ・琵琶湖の浄化につながる活動にも参加したい
- ・琵琶湖の汚れがひどい事を実感した
- ・湖魚料理を食べて、琵琶湖にはこんなお宝があるなんて思ってもいなかった等、赤野井湾の現状を知ってもらうことで、琵琶湖に関心を持ってもらえるようになった。

事業の参加者が少なくても、このような事業を継続することが市民の意識を変えていくきっかけになると感じた。

(2) 私たちの活動に賛同したグループが、イチョウがイ調査や水質調査活動、清掃活動にも参加されるなど、交流の場を持つことが出来た。

これを機にこれからもさらに交流の場が広がることを期待している。

7. この事業によって、どのような地域課題が解決しましたか？

(1) 守山市にも水環境についての活動をしている団体があることを知ってもらうことが出来た

(2) 「夢・びわ湖」の事業や「夢・びわ湖」が事務局をしている赤野井湾再生プロジェクトでの活動が守山市の公報に掲載されたことなどで、教育研究所の「郷土もりやまに学ぶ研修講座」や公民館主催の地域教育学級「守山輝き塾」などで環境活動についての講師依頼があり、水環境に対する意識の高まりと、私たちの地道な活動が地域に受け入れられてきたことを実感できた。

# 未来ファンドおうみ

## 2018年度助成事業 成果報告書

2019年5月18日発表

※裏面も記入してください。

1. 団体名	: 滋賀大学「環境学習支援士」会
2. 事業名	: 未来のびわ湖人育成のための学習支援事
3. 助成基金名	: びわ湖の日基金
4. 助成金額	: ￥200,000円
5. 実施事業の概要	<p>(1)未来のびわ湖人育成のための学習支援事業          学習船(うみのこ)での乗船宿泊体験は環境学習だけでなく共同生活や他校との交流も含んでいますが、当会はびわ湖の歴史やその変化と未来の問題を考えるプログラムの提供で、自分で考えて行動する未来のびわ湖人育成を目指します。</p> <p>1) 滋賀県フローティングスクール乗船前・後の学習実績          2018年度: ①大津市: 坂本小学校、逢坂小学校2回、堅田小学校、田上小学校2回          彦根市: 河瀬小学校、城西小学校、稲枝東小学校          ②東近江市: 能登川東小学校、湖東第三小学校、八日市西小学校、蒲生北小学校          ③近八幡市: 岡山小学校、桐原東小学校          ④栗東市: 葉山東小学校          ⑤高島市: 今津北小学校          ⑥蒲生郡: 日野町日野小、竜王町竜王西小学校          ⑦草津市: 老上西小学校          ⑧湖南市: 石部南小学校          ⑨米原市: 柏原小学校          ⑩長浜市: 朝日小学校、小谷小学校、古利小学校、七郷小学校、びわ南小学校、長浜小学校、計26校・28回実施した。</p> <p>(2)親子の体験講座「身近な川の自然探検」事業は、水生生物の観察を通して、川に親しみ地域の自然環境に関心を持ち、生き物が自分の環境にあったところに生きており、川と琵琶湖がつながっていることを感じさせます。びわ湖とつながる取り組みとして栗東市と共催、参加費の徴収と地域への定着を図っている。</p> <p>1) 親子の体験講座「身近な川の自然探検」 in 細川(金勝川支流)の実績          ①2018年8月4日1家族500円・栗東市共催、未来ファンドおうみ助成金で実施。          ②応募者数家族数30組・応募者80名。抽選で家族数20組に絞り子供31名・保護者22名・合計53名。          ③栗東市環境政策課3名(水質)・滋賀大学環境学習支援士会7名(生物3名・水質2名・安全管理2名)当日総参加者63名。          ④事前草刈り参加栗東市3名 会員3名(実施日7月25日)</p>

## 6. この事業を実施することによって、関係者（参加者、支援者、団体運営者、地域の人々など）にどのような変化がありましたか？

### (1) 「うみのこ」事業の要請とニーズについて

①2018年度は滋賀県フローティングスクール指導計画作成会議の要請を受けて、小学校240校5年生の担当教諭に「うみのこ」の出前講座の広報・応募を実施しました。

②県内26小学校、28回、児童数1450名と1昨年の小学校数の約2倍に増えました。

③新たに、長浜市、米原市、蒲生郡、高島市へ地域展開し、県内小学校の全域に広がった。

④この講座への県内小学校のニーズが大きくなりました。

⑤「うみのこ」の乗船前・後の学習支援で子供たちの意識・行動に変化が起こっています。乗船前の学習支援は、子どもたちがこれから体験学習するびわ湖への取り組みに自信が持てるようになります。乗船後の学習支援は、びわ湖を実体験し、その後に学ぶことにより今のびわ湖の素晴らしさや問題に気づきます。5年生のびわ湖の学習での子供たちのまとめ・発表では今の課題に向き合い、これからどうすればいいのか一人ひとりがテーマに意識的に取り組んでいます。

### (2) 親子で自然体験する大切さを保護者から評価されてきました。

①川が近くにあっても、触れること出来なかった小さな生き物に出会い、水質も分かることを学べたことに、親子で貴重な体験ができたこと保護者から高い評価がされてきました。

②子供たちのグループ討議から、五感を使った体験を出し合い、ポスト・イットに書いてグループで発表する。水と生物とのふれあいなど驚きと素直な感動がつづられており、体験活動目的を果たした。命の大切さ、森林・川・琵琶湖のつながりの学びに結びついた。

## 7. この事業によって、どのような地域課題が解決しましたか？

### (1) 未来のびわ湖人育成のための学習支援事業の地域の課題解決に向けて

①うみのこの出前講座の学校の申請に応じて、1クラス1講師を原則として地域的に学校が近くにあってクラス数が少ない場合、2つの小学校を同じ日に一人の講師で(90分×2回)する。また、地理的に遠く4クラス/1校以上で講師を2~3人して経費を削減するため、1講師、(90分×2回)授業を実施しました。

②先生方のアンケート結果、内容がやや難しいという意見が多かった。今年度はこれを改善するために、担任の先生との話し合いを進め改善点を見つけ出す。環境学習支援士会の中で合同部会を設置し、月1度開催して内容・WSの改善を図る体制作りをした。

### (2) 親子の体験講座「身近な川の自然探検」事業の地域の課題解決に向けて

①栗東市との地域協力を発展させていくとともに水質調査・生物調査だけでなく、森林・川・琵琶湖とのつながり大切さを深める。身近な川へのごみ(プラスチック等)がどこへ流れ込むのか実態を明らかにして川をきれいにする活動につなげたい。

③今年度、熱中症対策を実施したが、さらに熱中症対策を栗東市と再検討し強化したい。

# 未来ファンドおうみ

## 2018年度助成事業 成果報告書

2019年5月18日発表

※裏面も記入してください。

1. 団体名	: 葉山川環境美化推進委員会
2. 事業名	: 葉山川に親しむ会
3. 助成基金名	: びわ湖の日基金
4. 助成金額	: 300,000円
5. 実施事業の概要	<p>◆事業の背景と目的</p> <p>葉山川周辺に雑草が茂っていると死角（隠れる場所）ができ、変質者・痴漢の出没、また、犬の散歩等による排泄物等のごみが捨てやすくなることから、環境・防犯面の悪化が地域の課題となっていました。</p> <p>近隣には幼稚園、小学校、中学校と、公立高校も2校あり、葉山川の美化を通じて、風紀・安全上の改善を行い、安心して地域住民が環境学習及び自然に親しめる環境づくりを地域で取り組むことが必要です。</p> <p>草刈・ごみ拾い等を地域全体で取り組み、葉山川の遊歩道として地域住民の憩いの道にするとともに、外来種生物（ミドリガメ）を駆除し、昔のようにホタルや川の生き物（在来種の魚やアメンボ等）が住みやすいきれいな河川にすることを目的とし、事業を行っています。</p> <p>◆事業の概要</p> <p>葉山川の豊かで美しい自然環境の整備と保全を念頭に、葉山東学区地域振興協議会内に「葉山川環境美化推進委員会」を発足させ、活動期間6年が経過しました。</p> <p>【体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉山川環境美化推進委員会と、地域の企業・ボランティア</li> </ul> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉山川周辺の草刈やごみ拾いを定期的実施することにより、変質者や痴漢の隠れる場所等を無くし、犬の散歩等による排泄物やごみが捨てにくい環境にする</li> <li>・住民へのマナー問題の啓発活動を行う</li> <li>・葉山川に生息する外来種生物（ミドリガメ）を駆除し、きれいな水が流れ在来種の魚やホタル等の生き物が住みやすく美しい河川にする</li> </ul>

※この成果報告書は、印刷して当日参加者に配布します。

6. この事業を実施することによって、関係者（参加者、支援者、団体運営者、地域の人々など）にどのような変化がありましたか？

立ち上げ当初は、「誰かがしてくれる」「面倒くさい」等、どうしても他人任せになりがちで、心優しい年配の方にお任せ感が多大でした。しかしながら、身近な自然を守るには人による手入れが必要であり、全ての人がやらなくなったら元の雑草だらけの土手に戻ってしまうという危機感は皆さん持っており、地域の方による「良くしたい」「きれいにしたい」という思いからか、近年徐々にではありますが、ボランティア参加者が増えてきています。

参加者の方々には、自然の中でリフレッシュでき、地域の様々な人との交流・活動などの活力アップに繋がる良い機会となっています。

また、学区民の健康や安全面・景観の保全ができた結果として、高齢者や園児たちの散歩道、小学校の秋のマラソン大会コースにも選んでいただき、また、高校生のクラブ活動でも利用されています。

7. この事業によって、どのような地域課題が解決しましたか？

定期的に草刈が計画でき、いくら拾ってもキリがないというごみ問題に対し、捨てられる前に出来ることは何かを皆で考え、ごみ拾いや啓発活動など、地域全体で取り組みました。

ポイ捨て防止の呼びかけ、地域の環境啓発活動を積極的にすることで、危険箇所などが無いかを保護者目線でチェックでき、結果、変質者や痴漢の隠れる場所が無くなったことで、本年度の被害報告はありません。

また、犬の散歩等による排泄物やごみが捨てにくくなり、住民へのマナー問題の解決にも繋がっています。